



仕事上で「環境科学科」というところに籍を置いていながら、自らはというと、ちっともエコでない生活を送っています。ごみ出しの複雑な分別は家内に全く敵いません。

大学では小生がかつて運営していたEMS事務局で作成した「環境アクション5か条」が今でも行われていて、これは緩やかに守られています。どんなものかというと、

- ① 不要な照明やOA機器の電源を切ろう。
- ② 過度な冷暖房を控えよう。
- ③ 節水を心がけよう。
- ④ ごみの分別廃棄を徹底しよう。
- ⑤ 駐車時のアイドリングストップを心がけよう。

というものです。まあ、ありふれたものですが…。研究室の学生は結構まじめに守ってくれています。

ところで、大学のある山梨県上野原市のごみ分別法は東京や神奈川と比べ、緩やかなものです。大学には8種に分別したごみ箱を置いたのですが、周辺に住んでいる学生や職員から意味ないといわれながら定着してしまいました！これも一応守ってくれているようです。カン、ビン、ペットボトル、プラスチック、電池類、その他金属、紙類、燃やすごみ、だったかな。もちろん、小生もきちんと守っています。

個人的には6Rかな。研究室の学生にも教えていますが。

Reduce（発生抑制）、**Reuse**（再使用）、**Recycle**（再生利用）、ここまでが**3R**ですね。**Refuse**（拒否）、**Remove**（除去）、**Rental**（賃貸）、これで**6R**です。パーソナル**6R**とは次のようなものです。

- (1) **Reduce**：初めから資源やエネルギーを使わないようにする。(例) 近場は歩く、エレベータやエスカレータを使わずに階段や通路を歩く
- (2) **Reuse**：使いきり製品を使わない。(例) 紙コップや割り箸の使用を抑える
- (3) **Recycle**：再生品を利用する。(例) 再生紙の使用
- (4) **Refuse**：過度な資源の利用を拒む。(例) 買い物で包装を断る、書店で本のカバーを断る
- (5) **Remove**：ムダを省く。(例) 無用な買い物をしない、
- (6) **Rental**：買わないで必要なときに借りる。(例) 映画DVDや音楽CDはレンタル店から借りる

小生の採点は次のとおりです。一寸甘いかも。

- (1) ○ (健康上歩くことにしているので。エレベータやエスカレータは重い荷物があ

るときやキャリーバッグを使っているときは使ってしまい△)

- (2) ○ (家や職場では使い切り品はないですね；他にプリンターで裏紙使用、My 箸携行など；駅の立ち食いスタンドでは已む無く使ってしまおうので×；本ではブックオフや神田の古書街をよく利用します。)
- (3) ○ (意識していなくとも、世の中再生品を使っているものは多いです。レジ袋とか、CanDo などの 100 円ショップの製品とか)
- (4) ◎ (これはかなり熱心にやっています)
- (5) △ (これが小生の欠点。記憶にない積読書籍がどっさり。)
- (6) ◎ (みゆきさん以外の CD, DVD は Tsutaya です。)

小生もアラセブなので、身辺整理を始めなければと思ってきました。家内はずっと前から始めているようですが、小生は俗物なのでモノが溜まるばかりで。ちなみに、第 20 回生命表 (厚生統計協会) によると、平均余命は約 15 年です。ついでに、他の年齢も列挙すると、0 歳男 78.56 年, 女 85.52 年；10 歳男 68.93 年, 女 75.84 年；20 歳男 59.08 年, 女 65.93 歳；30 歳男 49.43 年, 女 56.12 年；40 歳男 39.86 年, 女 46.38 年；50 歳男 30.63 年, 36.84 年；60 歳男 22.09 年, 女 27.66 年；70 歳男 14.39 年, 18.88 年；80 歳男 8.22 年, 女 11.13 年；90 歳男 4.15 年, 女 5.53 年；100 歳男 2.08 年, 女 2.54 年；110 歳男 1.07 年, 1.12 年。以上。



どう考えても「エコ」に貢献していると思えない私の生活。テレビはつけっぱなし、電気もつけっぱなし・・・でも・・・最近少しずつ心を入れ替えています。まめに電気は消す。テレビは見ない時は消す。そんな初歩的なエコ活動です、あ・・・後、お金をかけずに料理を作る。冷蔵庫に出来るだけ、余計なものは入れ込まない。使えるだけの物を買って、使い切る。こういうのもエコでしょうか？



いつも頭の片隅に置いてはあるけれど、熱心にエコしてます、といばれるほどのものではありません。エコ生活の魅力はなんといっても節約生活とかぶるところ。バブルの頃には「ケチ」と罵られた部分が「エコ」という言葉によって正当化された気分です (わたしの「ケチ」の定義を詳しく述べたいところですがそれでは脱線しすぎるのでここでは遠慮しておきます)。まず季節を問わずひとりであるときにはエアコンはつけない。冬は厚着し夏はひたすら我慢する。わたしのような非生産的な人間がエアコンをつけて暮らしてはいけないとエコ云々にかかわらず思いこんでいるようです。それで風邪ひいて周りに迷惑をかけるのはいかなものかと思うけれど、そうでなくても風邪はひいたかもしれないし (笑) ウォッシュレットも日中は電源はオフ。客人のいるときにしかつけない。この話をすると案外周りから驚かれて恥ずかしい思いもするけれど (不潔な人種という目線ですね) アタシは原始的生活でな

んとかやっけていける体質みたいです。ただやっぱり水洗トイレはよいけれど、流す時は[小]でね。

自慢じゃないけど今20才の頃の生活に戻ってもあんまり違和感なくやっけていける気がします。パソコンがここまで進化してないのが嫌なくらいで、コードレス電話も携帯電話も大好きだけどなくてもいいかと。今はだいたい電話する友達がいないんだから。友達がいるほうが便利な世の中よりなんぼいいか。電気釜も冷蔵庫もステレオも、ある程度の電化機器は揃ってた頃だと思し、iPodはないけど我慢できるし。ビデオデッキは一般にはまだ手が届かなかったころかな。ビデオがあれば大好きなミスチルを何回も見る事ができて、一杯飲みに行って帰りが遅くなっても心配ない、これは素晴らしいことだけど、ほんとにそうか？と改めて問えば、それによって失くしたものもあるような気がするし。当時は別にさほどの不満もなく若さだけで暮らしていた。ただ最初からなかったものと、あったけれど失くしたものととの差は大きいとは思いますが、便利になってしまった世の中、40年前を時に想像しながら暮らすのも一興ではないでしょうか。

身近なエコはごみの分別（論議もあるようだけれど、決まったことはきちんとしよう）、スーパーの袋はなるべくもらわないなどなどまあいろいろ。できることをできる範囲でして決して無理はしない。無理をするよりできることを長く続け、少しずつできることが増えていくのが望ましい、くらいに思っています。ところで、鳩山総理の二酸化炭素排出量25パーセント削減公約には賛成。目標を高く掲げるのは悪くないと思います。日本も時には諸外国を驚かせるくらいの発言をしてもいいのでは。できたら我が家にもソーラーシステムをつけたいと思っているので、国からの補助をもっとお願いしたいけれど先日の必殺仕分けではソーラーシステム補助加算は見送りになったんでしたっけ？各家庭の電力料金の値上げによる利益で、ソーラー設置家庭の電力を買うというシステムにもなんか違和感を覚えるし、全ての人にとって不満のないルールはあり得ない、わかってはいるのですが。

生きているということそのものがたくさんのゴミを出して生活しているということ。生きることに資格審査があったらアタシなんかやばいかも。映画「ディープインパクト」を観ると才能のない50才以上はいやおうなしの切り捨てだったからそれなりの覚悟はできてるんだけど。あの映画観ておいてよかった、としみじみ思う今日この頃。

そんな切り捨て世代の自分でも、ストップ温暖化！！と、強く思う時があります。それは氷の上で立ち往生するホッキョクグマや、クマが民家を襲ったりイノシシが田畑を荒らしたりするニュースを見たとき。人間のエゴが動物たちの暮らしをおびやかしているのですよね？動物たちがなんとか今まで通り生きられるような世界とわたしのエコは繋がっているはず。弱肉強食、自然淘汰、動物たちの世界は厳しいけれど、人間たちがその絶滅に手を貸すのではなく、地球の上で共存していくことができたなら・・・と我が家のライ隊員の瞳を見てるとつい考えてしまうのです。のんびりゆるやかに、ただ忘れずにとやっけてきたけれど、少しだけ無理してエコに取り組みエコをもっと知りたいと思ったら、これから老年期（いやだけど）に差し掛かる自分にとって身近な目標となるかもしれない、そんなふうにも考えたりもします。



Y.YAZAWA

エコな生活、旬の話題ですね。

だけどちょっと待って、「エコな」って何でしょう？そもそも日本語がないのは何故か。それをあらわす言葉がないってことは、もともと日本には「エコな生活」がなかったからなんでしょう？もし昔からあったとするなら、それを示す言葉があっても良さそうなものなのに・・・

1) 生態系重視

「エコ」とはおそらく **ecology** ないし **ecological** から来た言葉なんだろうからその意味を調べてみると「生態系を重視する」という事らしい。つまり今この世に生きているいろんな生き物、動物・植物に人間と同じような生きる権利を認めて全生物と一緒に幸福になりましょう、という感じでしょうか。そうだとすると私は全く「エコな人間」ではありません。まず部屋の中を飛んでいる虫が大嫌いです。蚊や小さな虫が飛んでいると、必ずそれを殺したくなります。床を這いずりまわるゴキブリも大嫌い。こういう虫は徹底的に殺戮したい。その思いはおそらくヒトラーより上を行っているかも知れません。植物に対してだってそうです。綺麗な花ならともかく、玄関先に生えている名もない雑草を見ると、とにかくむしり取りたくなる。私は悲しい事に植物種差別主義者である事を告白しなければなりません。

ただ、動物は生きるために他の種を殺して食べなければならない。ライオンはウサギなどの小さな動物を殺して生きています。だから人間が他の動物を殺す事もある程度は許してもらえるように思えます。人間が他の動物を殺しても地球全体の生態系が変化しない、というのはどの程度か。それは人間が他の動物と同じように、被害者になる可能性もあり得る状態ではないでしょうか。人間が馬や牛を殺して食べてもいいのは、逆に人間が虎に襲われて食べられてしまうかも知れない可能性を覚悟した上でのことではなければならない。人間だけが特別の地位にあって、他の動物から殺される可能性が全くないから人間がのさばり地球の生態系を破壊してしまったのではないかと思うのです。

もし人間が地球上の生態系を守るといふなら、おそらく石器時代あたりの生活をしなければならぬのではないのでしょうか。天然で得られる石器と木で出来た武器をもってナウマン象に立ち向かい、時にはそれを倒して食料に出来る事もあるが、それには数人の犠牲も伴う。そうして生き残りを掛けて全ての動物が対等な立場で戦い、それぞれの力関係の中で数のバランスを保つのが本来の生態系維持というものでしょう。それが「エコな生活」なのか？おそらく違うんだろうなあ。

2) 持続可能社会

「エコな」に相当する日本語として良く聞くのは「持続可能な社会」という言葉です。エコロジーと言いながらやっぱり生態系についての関心などなく、人間が独裁的に地球を支配する状態をずっと続けたいという気持ちが露骨に出ていますよね。人間の独裁が守られれば少しくらい生活レベルを下げるのは許容してもいいと思っているのでしょうか、どの程度我慢するんでしょう。江戸時代の日本人の生活レベルがおそらく理想的な持続可能社会ではないかと思うのですが、そのレベルで我慢できる人がどれくらいいるか、ですね。私なんかかなり自信があるけど実際その状態になったらどうでしょうか。炭酸ガスを出さないでエネルギー

一を得るためには最終的には原子力に頼らざるを得なくなって、炭酸ガスより恐ろしい放射性廃棄物に悩む事になるのではないかと予想します。そして長い目で見ると、放射能に耐性を持つ生物が現れて、その生物が地球の次の支配者になるのではないのでしょうか。地球の歴史を紐解くと、植物が大量発生して、地球上に当時では毒ガス以外の何ものでもなかった酸素が植物から大量に発せられ、その酸素が充満する環境でも生き延びることの出来た動物が地球の支配者になった、という経緯があります。次は放射能が充満する環境で生き延びる生物が支配する世界が来てもおかしくありません。人間が「持続可能な社会」を望むとそのような皮肉な結果を招くかもしれません。

3) もったいない

「エコな」と言わずに「もったいない」と言うと私にも良く分かります。もっと違う日本語では「けちな」とか「しまりや」とかでもいいかな。出来るだけおカネを掛けない生活、出来るだけ資源を浪費しない生活、出来るだけ時間を無駄にしない生活、そういうものは心がけています。

その際時々安全性と経済性のトレードオフに悩まされる事があります。例えばインフルエンザ対策としてのマスクです。一度使っただけで捨てるなんてもったいない、だけど安全性の事を考えれば捨てなければならない、さあどうしよう、という悩みです。かなり多くの局面で安全性と経済性はトレードオフの関係にあるのですが、車の運転に関しては両者が同時に成立するという有難い関係にあります。つまり安全運転がそのまま経済運転になる。こんな場合は心置きなく「エコな」運転を楽しむ事ができます。急発進、急停車は絶対しない。前に見える信号が赤になったら即アクセルから脚を離して、出来れば信号の前で自然に停車するくらいの速度で運転します。ただ、後ろに車が続けている時は、その車に気兼ねして無駄なガソリンを使わざるを得ないのが残念です。だから後ろの車が追い越してくれると本当にホッとします。世の中には無駄なガソリンを噴かして、おカネを使って危険な状態を買うような人がいるけど、全く信じられない。車の運転に関しては安全を買うとおカネがついて来る。ありがたい話です。

4) 無駄と贅沢

無駄は嫌いだけど、贅沢はちょっと好きです。無駄と贅沢は何が違うのか。出来れば皆様のご意見を聞いてみたいです。贅沢はおそらく「エコな生活」ではありません。でもやっぱりたまに少しは贅沢したい。お酒というものがあります。おそらく生命を維持するために科学的にみればお酒は無駄なものに違いない。でも「無駄だからお酒なんかやめておけ」という気持ちにはなれない。お酒は贅沢の一種なんでしょう。「エコな生活」の一番の敵は贅沢。でも贅沢はやっぱり素敵だ。



おまけのヒステリックグラマーのエコバッグが欲しくて雑誌を買ったのは使用頻度が高いからよしとしても、いつの間にか増えていったエコバッグはエコじゃないですね。来年は余分なものや余分なお肉を溜めないぞと決心する年の暮でございます。今年も皆さんの参加、ありがとうございました。また来年も宜しく願います。何卒何卒～。